

チャルオツシヨツスムニダ 小樽港湾事務所へ

～韓国企業が視察に来樽～



※チャルオツシヨツスムニダ
韓国語で「ようこそ」の意味



3月16日(金)、太平洋セメント(株)と韓国の双龍セメント(株)の研究者・技術者が小樽港湾事務所に視察に訪れました。

事務所職員から小樽港湾事務所初代所長廣井勇と北防波堤について講義を受け、日本人による初めての第一線防波堤を学びました。また、双龍セメント(株)から技術研究所の紹介や最新の研究テーマの紹介がありました。

研究者達からは「海象条件の厳しい小樽港を選んだのは何故か」「モルタルブリケットの養生・保管はどのように行ってるのか」などの質問があり、事務所職員からは「韓国の公共事業の現状や国内における経済発展に関するウェイトはどうか」「マスコンクリートはクラックが発生しやすいが、対策としてどのようなセメントが適しているか」など、意見交換を行いました。



資料コーナーでは、模型や資料の説明を行い、最後に100年以上経過したモルタルブリケット(コンクリートのテストピース)の保管状況を見学し、終了しました。



右のようなパワーポイントを使用して、説明する双龍セメントの研究者



意見交換し、国際交流を深めた



北防波堤建設当時に使用したモルタルブリケット養生水槽のかくはん機を見学



コンクリート耐久試験に使用した器具をカメラに収めていました



モルタルブリケット(コンクリートのテストピース)の説明をしています



113年前のモルタルブリケットの実物



北防波堤は土木学会選奨土木遺産
北海道遺産にも認定されています



工事の際に撤去した北防波堤斜塊
(コンクリートブロック)



←海水中に保管しているモルタルブリケットを見学しています